

就任ごあいさつ



公立能登総合病院
地域医療支援センター長 内科部長 山端 潤也

地域医療を支えてくださっているご施設の先生方、スタッフの皆様、いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。

この4月から、地域医療支援センター長を拝命いたしました、内科の山端(やまはな)です。時代が平成から令和へ移る春に、新たな役割を担うこととなり、身の引き締まる思いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

これまで、一般内科や救命救急などで、普段は先生方にお世話になっている患者さんをたくさん拝見してまいりました。紹介／逆紹介を通じて、先生方や療養、介護施設の皆様との連携を深めていくことが、ますます重要となってくると感じております。地域医療支援センターを通じ、「顔の見える」連携を深めていきたいと思っております。今後とも皆様の深いご理解とご支援を心からお願い申し上げます。



地域医療支援センターメンバー紹介

左奥より
大森(事務)、藤井(MSW)、堤(MSW)
谷内(MSW)、田中(MSW)、斉藤(MSW)

左手前より
島田(退院調整専従看護師)
多田(地域連携看護師)
青木副センター長(地域連携看護師)
山端センター長(内科部長)
上木副センター長(病院長)
高名(MSW)
細川(地域連携事務)

新メンバー紹介

<斎藤ソーシャルワーカー>

平成31年4月より、精神センターから地域医療支援センターへ異動となり、2ヶ月が経過しました。入退院の回転の速さに目を見張る毎日です。限られた入院期間の中で、退院後の生活調整への難しさを肌身で感じています。一人一人の患者さまやご家族さまの思いに耳を傾け、多職種と協働し、自己決定を大切にしながら望む暮らしの実現に向けて、努力していきたいと思っております。まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

<細川地域連携事務>

4月から地域医療支援センターに異動でやってきました細川です。これまでは、院内の施設管理、物品等の契約業務や、施設基準等の医事の業務をしており、今回地域連携の業務は初めてとなります。不慣れな部分がありますが、当院と地域の皆様、また開業医の先生方のお役に立てるよう日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

脳神経外科疾患と認知症のお話

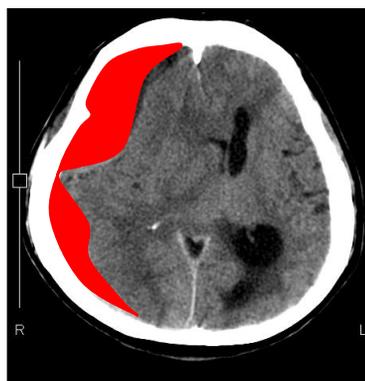
公立能登総合病院 脳神経外科部長 喜多大輔



「認知症(にんちしょう)」という言葉が定着し、脳神経外科外来でも「もの忘れがひどい、認知症が心配」という相談を受けることが多くなりました。

「認知症」の原因はさまざま、アルツハイマー型認知症に代表される、「脳そのものに原因がある認知症」の治療は、まだ発展途上と言えます。

その一方、「脳が圧迫されることによっておこる認知症」は、手術による改善が見込まれます。代表的なものは、「慢性硬膜下血腫(まんせいこうまくかけっしゅ)」と「特発性正常圧水頭症(とくはつせいせいじょうあつすいとうしょう)」です。

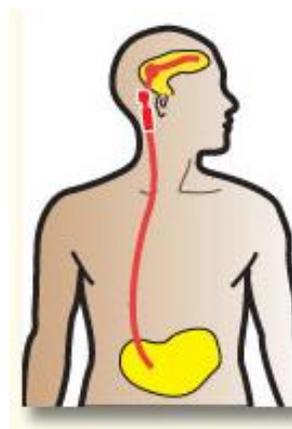


手術前

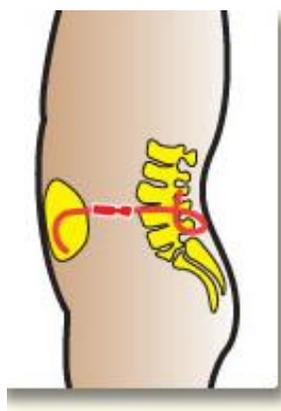


手術後

慢性硬膜下血腫は転倒などで頭をぶつけた方が、1-3か月後になり、「もの忘れ」や「ふらつき」などを呈する病気です。頭蓋骨の内側に溜ってきた血液を小さな穴から吸引する手術で、症状は改善します。



脳室-腹腔シャント



腰椎-腹腔シャント

特発性正常圧水頭症は、「もの忘れ」「歩きにくい」「おしっこが近い」など症状が進行してくる病気です。脳脊髄液(のうせきずいえき)という、頭蓋～脊柱管内の水が増えてくるのが原因です。「シャント手術」とよばれる手術で症状が改善します。

思い当たるようでしたら、脳神経外科までご相談下さい。